

追加資料3 (視察・研修の報告書)

平成23年度 視察研修レポート

北斗市4Hクラブ

視察先 八雲町：農業生産法人有限会社ペンケル牧場
長沼町：タキイ種苗 長沼試験農場
北広島市：くるるの杜

考察

農業生産法人有限会社ペンケル牧場

この牧場には、完熟有機堆肥を見学させていただきました。肉牛を肥育しながら牛糞をプラントにて堆肥化し、それを販売したり自社の畑に使用したり、といった循環式農業を行っていました。

この堆肥は、札幌ドームHIROBA天然芝サッカー場や栗山町ふじスポーツ広場、シャトレゼカントリー倶楽部札幌、札幌市カントリーガーデン等といった場所で使用されており好反響を得ているようでした。

タキイ種苗 長沼試験場

この試験場では、主に長ネギの「北の匠」の特性についての品種説明や圃場見学などをさせていただきました。

ほかには、北斗市で試験栽培されている長ネギの番号物の品種や、「北の匠」とほかの品種と比べた場合の品質、収量の違いなどについて説明してもらいました。

…花についても見学してみたかったのですが、長沼試験場では花の圃場は無く野菜の圃場しか無いとのことでした。

くるるの杜

ここは、体験型農場をはじめ、農畜産物の調理加工体験施設、地産地消を実現する農村レストラン、北海道農畜産物の直売施設などがあり、これらの施設が有機的に連携することにより、生産から消費までのプロセスを一体的に体験できる施設になっているようです。

体験農場では、北海道を代表する作物の、稲、じゃがいも、小麦、豆、野菜などを栽培し、種まきや収穫などの農業体験プログラムを提供することで、農業への共感を持ってもらうことを主としているようでした。

平成 23 年度北斗市 4H クラブ視察研修レポート

②

1. 八雲町 農業生産法人有限会社 ペンケル牧場 視察研修

こちらの牧場では肉牛の飼育場で説明を受けたり、発酵プラントという堆肥場で実際に堆肥を見せていただきました。

特徴としては肉牛を飼育し、その際に発生する牛ふんを堆肥として利用する「循環式農業」を行っていました。

● 肉牛事業

約 350 頭の牛を飼育しており、特徴としてはエサや薬剤などに抗生物質を使わないというあくまでも「自然に近い」状態での飼育を心掛けているようで、消費者からも好評との事でした。

● 堆肥製造・販売事業

「おがくず堆肥ペンケル 1 号」という「完熟有機堆肥」を製造していました。上記の通り「循環式農業」を行っていて、飼育している肉牛の牛ふんを発酵プラントという堆肥場で堆肥として製造・販売をしています。

札幌の運動場など道内さまざまな施設で利用されているそうです。

● まとめ

私個人では酪農業していないのでこちらの牧場で実践している「循環式農業」を行うことはできませんが、野菜を作って、売れる部分を残し、売れない部分を捨てるという行為が当たり前のことのように行っていた自分自身を見つめなおす事ができました。

今すぐに売れない部分を何かに利用することは思いつくことはできませんがただ捨てるという行為では終わらせてはいけないなど考えさせられました。

またこちらの完熟有機堆肥というものを使ってみたく少し思いました。

3. 北広島市 ホクレンくるるの杜 視察研修

こちらでは対応者の山口氏にくるるの杜の目的や運営内容についての説明や直売所、圃場などの施設を見学させていただきました。

- 施設概要

敷地面積 176,561㎡

全施設の完成 平成22年10月完成

- 運営内容

体験農場(面積 畑10,000㎡、水田 1,400㎡、ビニールハウス 4棟)
稲、ジャガイモ、小麦、豆、野菜などを栽培、種まきや収穫などの体験

調理加工体験施設(2か所 床面積100㎡、111㎡)

収穫した作物をシンプルに調理して食べることで食と農が乖離する現状を改善することが目的

農畜産物直売所(売場面積380㎡)

生産者直売を中心とした販売、多くの品種を取りそろえ試食コーナーを設け農産物の奥の深さや、地産地消の理解を得ることで北海道農業の基盤強化につなげる

農村レストラン(客席150)

直売所の農畜産物を使い新鮮、安全、美味しいを提供。

- まとめ

動員数は約27万人を超えたとの事

体験農場では様々な野菜の説明や今まで自分が見たことのない設備や機械、ハウスなどとても興味深いものでした。

一度、視察ではなく一個人として農業体験や調理加工体験などしてみたいなと感じました。

北斗市 4Hクラブ道内視察レポート

③

日 程 平成 23 年 6 月 21 日～22 日

視察先 ①ペンケル牧場
②タキイ研究農場
③くるるの杜

①ペンケル牧場

畜産（肉牛）を行っている農業法人であり循環式農業の一環として堆肥販売を行っており、その生産工程使用事例及び成分例の説明を受ける。

②タキイ研究農場

長ネギの新品種TNE738の特性及び北の匠（長ネギ部会推奨品種）の特性を生かした栽培管理の説明を受ける。

③くるるの杜

ホクレンが出資母体となっている「食と農」を通して消費者に農業体験、農産物販売を行っている施設で主にその説明を受ける。

視察報告

④

6月21日から22日にかけて視察に行ってきました。

21日は長沼町のタキイ種苗を視察しました。ここでは、主にネギの北の匠という品種についてのメリットとデメリットを教えてもらいました。北の匠はうちでも作っている品種なので、興味深かったです。メリットについては、早太りで多収種、そして低温でも成長が早い品種だそうです。デメリットは病気にかかりやすく、後半に活性が低下して老化も早いとのことでした。しかし上手に管理することによって、欠点を補えると教えてもらいました。まず、肥料はロング肥料よりも即効性のある肥料がいいということ、次に根を張らせるために培土をして酸欠を起こさせないこと、そして肥切れを起こさせないことを教わりました。さらに、圃場は心土破碎をしてなるべく水捌けを良くしておくことも教わりました。この事に気をつけながら来年からうちでも、もっといいものが採れるように頑張りたいです。とても勉強になりました。

22日は北広島にある、ホクレンくるるの杜を視察しました。ここは、北海道を代表する作物、稲、じゃがいも、小麦、豆、野菜などを栽培して、種まきや収穫などの農業体験プログラムをやっていて、農業への共感を持ってもらいたいという思いがあるそうです。さらに調理加工体験と連動しながら、食と農のつながりの理解につなげていて、生産者と連携したプログラムも実施して、消費者との信頼関係を強化しているそうです。この話を聞いたときは、かなり堅い感じがしましたが、実際に見てみると、直売所は人で賑わっていて、野菜も新鮮でした。みんなが育てている野菜もたくさんありました。こういう場所は北斗市にも必要だと思いました。消費者に一番理解してもらえんと思いました。4Hクラブでも、こんなに大きくは出来ないかもしれないけど、小さくても消費者と交流できる場所を作っていけたらなと思いました。

今回の視察で見て聞いたことを、今後に活かしていきたいです。

視察報告

⑤

6月21日から22日に視察研修会に行ってきました。

初日はタキイ種苗の試験場に行ってきました。主力のネギやトマトなどの品種の説明をしてもらいました。ネギの品種がたくさんあり、それぞれのメリットやデメリットなどを教えてもらいました。

私の家はネギ栽培が主な栽培なので、そのいい点、悪い点をいかし今後の栽培に役立て、収益を伸ばしていきたいと思います。

22日は北広島にあるホクレンくるるの杜の視察でした。

ここでは、北海道を代表する作物、稲、じゃがいも、小麦、豆、野菜などの農業体験プログラムをやっていて、一般の人に土地を貸して、種まきから栽培管理、収穫までを体験することができます。

そして、くるるの杜では、直売所があり、くるるの杜で採れたものや、北広島市内の農家が持ち込んだ者がありました。そのほかにも、加工食品などもありました。

私たちも、小さな直売会を開いたりしています。なので、陳列の仕方、包装の仕方などいろいろ私たちでも試していけるのではないかというものもあり、良い刺激になりました。

今回の視察は、農業のものの種から、収穫、販売と一連の流れを勉強した視察になったのではないかと思います。今後、TPP問題や農家には不利なことがたくさん出てくると思っています。しかし、この視察を忘れず、今後の農業生活に役立てたいと思います。

北斗市 4H クラブ道南視察レポート

⑥

- 視察先
- 1 ペンケル牧場
 - 2 タキイ研究農場
 - 3 くるるの杜

1 ペンケル牧場

堆肥について視察してきました。ペンケル1号という堆肥を製造していました。露地やハウスなどいろいろ幅広く適し、一回使ってみたいなと思いました！この農業法人は循環式農業の一環として堆肥販売を行っていました。

2 タキイ研究農場

長ねぎ新品種 TNE738 の特徴と北の匠の特徴と長ねぎの栽培管理の説明を受けました。

新品種の TNE738 の特徴は耐病性があり、葉枯が少なく、首、太りが揃う特徴があるそうで一度は試してみたいです。

3 くるるの杜

体験型農場をはじめ、地産地消する農村レストランなどあり

体験農場は野菜全般や稲などあり、種まきから水やり追肥や収穫までの農業体験で、この体験で一般の方々が農業への共感を持ってもらう事を目的にやっているそうです。

今回視察した「農業生産法人有限会社ペンケル牧場」、「タキイ種苗長沼試験農場」、「ホクレンくるるの杜」についてまとめます。

1. 農業生産法人有限会社ペンケル牧場

堆肥製造について視察してきました。この会社では、おが屑と牛の糞尿を原料とした「ペンケル 1 号」という堆肥肥料を製造しており、露地やハウス栽培、家庭菜園、鉢植え等に幅広く適し、札幌ドームのサッカーグラウンドの芝にも利用されているそうです。

製造過程は、国産広葉樹のおが屑のみを牛舎の敷料として使用し、その後牛の糞尿とともに回収し、発酵機により 70℃ 近くまで発熱・発酵させ、堆積発酵させます。

無駄なものは一切入っておらず、またペンケル牧場では肉牛肥育も行っているのも、まさに循環型農業が成り立っていると思いました。私の家でも、稲刈り後の藁や、精米時の米糠をマルチや肥料として使っていますが、ペンケル牧場のようにさらなる「循環」をできるよう頑張ります。

2. タキイ種苗長沼試験場

ネギの品種動向調査について視察してきました。私の家ではネギを扱っていないのですが、北斗産のネギでも多く使用されている“北の匠”という品種について勉強してきました。また、現在改良中の“TNE-738”という品種についても教えていただき、今後ネギを栽培することになった時に、今回のことを活かして生きたいと思います。

3. ホクレンくるるの杜

複合型体験農業施設について視察してきました。くるるの杜では「育てる、作る、食べる、感じる、つながる」といったたくさんの「〇〇る」を体験できることがコンセプトで、体験農場、市民農園、直売所その他、農家レストランや調理加工体験室など、多くの施設がそろっていました。

ハウス・畑周りの景観は、一般農家もキレイにしているのはもちろんですが、くるるの杜の徹底ぶりは、参考になりました。私の家でも資金がたまれば、徹底してみたいと思いました。

4年後、北海道初の新幹線駅ができる北斗市ですが、函館に観光客が流れないためにも、こういった「食育」施設を市内に建設できれば、農業の街としても PR できるのではないかと思います。

1日目 タキイ種苗 長沼試験農場

この農場では、長ネギやトマト、ジャガイモなどの色々な野菜の品種の研究開発や栽培を実際に体験し、園芸の基礎知識や栽培技術を習得して、次の世代の農業後継者を支え、発展させる人材の育成を目指す場所である。

他にも研究農場があり、その農場では、優れた研究設備を活用し、野菜や花を対象に社会やニーズに対応した品種改良や開発をしている。

2日目 ホクレンくるるの杜「もり」

このくるるの杜は、元は牧場の敷地だった場所を農場にしたといわれ、広大な農村空間の中に体験農場や調理加工体験施設、直売所、旬の野菜を使ったレストランなどがある。

直売所では野菜の他にも、農畜産物を原料に豆腐や味噌、お菓子などの加工品もある。

名前の由来は、一つ目のここに「くる」と、二つ目の育てる、作る、食べる、感じる、繋がるなど、食と農にまつわるたくさんの「〇〇る」を体験してもらおうという二つの意味を合わせてこの名前にしたと言う。

そして、くるるの杜は普通に食べている野菜がどのように生育して食卓にのぼるまで、一体的に体験して「食」と「農」のつながりを学ぶことができる。

3 感想

一日目のタキイ農場では、ほとんどのメンバーが長ネギを出荷をしているので、長ネギの「北の匠」の特性と栽培ポイントを教えてくれた。他にも農場で新種の長ネギの紹介をもらった。

この長ネギは病気に強く、低温伸長性に優れて葉の枯れが少ない。もし機会があればその新種を試してみたいと思う。

二日目の「くるるの杜」では、農業体験や直売をしていることは知っていたけど、レストランや調理加工体験ができることは、知らなかった。平日でもかなりの人数が来ていたのでかなりの人気の農場だということがわかった。

全体をどうして今回の研修でネギの最良の育て方や、農業と食の繋がりを知ることができたので、自分的には良い経験だった。

北海道青年農業者会議

①

日程 平成24年1月31日~2月1日
参加人数 北斗4Hクラブ10名
場所 札幌パークホテル

北海道青年農業者会議は2日間の日程で行われ、全道各地の4Hクラブのプロジェクト、アグリメッセージの発表が行われ、そして講師によるパネルディスカッションが行われました。
プロジェクト発表は地域活動・園芸特産物・畜産経営・土地利用型作物の4部門で発表が行われました。それぞれ部門別に最優秀者が選出され全国青年農業者会議で発表が行われたようです。
ちなみに今回の地域活動部門で発表された さんのプロジェクト「Tokachi Natane Re-farm Project ~十勝農業に新しいイノベーションを~」は農林水産大臣賞。
アグリメッセージを発表した さんの「畑違い」な俺の決意表明も農林水産大臣賞を受賞されたそうです。内容はUSTREAMで閲覧可能。
今回発表を聞いた中でこの2名の発表は群を抜いて素晴らしいものがありました。



北海道青年農業者会議

②

今回、北斗4 Hクラブは 君が発表者として全道大会に参加しました。
今年も各地域の人が色んなプロジェクトに取り組み頑張っていました。
北斗4 Hクラブは残念ながら全道大会には選ばれませんでした。正直他の発表者に比べても、北斗4 Hクラブは現実的で実用的なプロジェクトに取り組んでいる方だと感じました。どこの地域も正直今更とか先のことばかりでプロジェクト活動としては面白いかもしれないけどいまいち現実味が無い感じがしました。
それに比べ北斗4 Hクラブはネギことでも地域の農協や部会と今の問題点など情報をやりとりして活動していたので自分にとっては遙かに身になりました。
後は知内から全国大会に選ばれたのは同じ渡島地区としてはとても良かったです。

懇親会では色んな人と話をする機会が有りそれはそれで良かったと思います。
プロジェクトや建前なしのぶっちゃけトークの方が正直『おー、なるほど』って思うことが多かった気がします。
特に栃木の人たちと仲良くなり米に関しては似たような条件で共感できることが多かった
ので楽しかったですね。作型は基本的に路地主体でハウスなどの施設栽培にはあまり力は
入っておらずそこは気候の違いなどの差はありましたが、米の防除のタイミングや除草の
タイミングなど同じような苦勞をしているなど話しました。
その中で嬉しかったのは近年の北海道米は美味しい！昔のイメージと全然違うと言う言葉
が聞けたことです。フックリンコやおぼろづき、ゆめぴりかは見た目も味も良いと言う人
が結構いました。
北海道米が本州のほうでも人気が出てきているのは聞いていましたが、道外の生産者から
も高い評価をされているのは本当に嬉しかったです。
これからも、頑張らなきゃいけないと思いました。今回の大会は色々な意味でいい経験が
できたと思います。

おわり

③

今回僕自身4回目の参加となり、年々発表者の内容のレベルがとても高くなっていくのが感じられました。

今大会では僕達、北斗4Hの「北海道における『サツマイモ』の可能性パート2」を発表しました。

近年新幹線開業にむけ、特産品としてサツマイモの加工品を考えてそれをプロジェクトとして、取り組んでいっています。

発表後、審査員の方々からのアドバイスをもらい、次の可能性をみいだす事ができました。

他の地域のクラブ員の発表で、我が家でも作っている、大豆の課題にした芽室町の明友青年会たまねぎ課題にした、ながぬま4H、栗山4H、明友青年会の国産大豆の魅力を再確認というテーマでした。

国産大豆を輸入大豆を比較して長所、短所がよくわかる発表でした。

ながぬまのプロジェクトは、生育調査で肥料の使い分けでの収量、利益、規格その結果での増益をわかりやすく発表しました。

数ある内のなかで一番印象に残ったのが、十勝の○○○さんの発表です。学歴が中央大学法学部卒と高学歴にも関わらず、全く足を踏み外さないことがない農業にチャレンジした方の話でした。

地域の栽培経緯から体系、収益性、自分自身がこれから進むべき道を、就農4年目で見出していて就農10年以上たつ僕もタジタジでした。

今回の発表で知内の○○○君の園芸が最優秀賞に選ばれました。

君の発表と僕たちの4Hの発表時間が重なり、聞けなくて非常に残念ですが、4～5年前から友達なので、きっと内容がしっかりまとめてあり、全国大会でも良い成績を残せる発表だと思います。

今回の参加は、10年以上携わっている農業に別の目線から見る事が出来るようになりました。私も他の地域、同じ地域の4Hクラブ員に負けないう切磋琢磨に農業の改良に努めたいと思います。

全道大会について

4 H

④

今回、札幌で行われた全道大会は、自分にとって驚きがたくさんありました。自分は今回初めてアグリメッセージでの発表をして、今回、初めて全道大会を見に行ったわけですが、そのレベルの高さに驚きました。自分は、渡島地区でさえレベルが高いなと感じていたのですが、やはり全道は、話には聞いていましたが、すごくレベルが高いなとかんじました。もちろん原稿用紙を見ることなどなく、身振り手振りなど聞く人をあきさせないような話し方をしており、自分にとっては驚きの連続でした。

また、プロジェクト発表でも、自分は農家を初めて2年目なのですが、まだ聞いても理解できないような、先輩方の難しい話ばかりで自分もいつかは立派な発表ができればいいなと思うことばかりでした。それよりも驚いたのが身近な知内の発表した人が全国大会に出場したということでした。自分と歳もあまり変わらない人がこんなに立派であるということに驚きをかんじました。

初日にあった交流会では、道外の方とも話をする機会があり、北海道では当たり前の仕事の仕方が向こうのほうでは、考えられないやりかたであったりしたことにもおどろきました。もちろん、その逆のこともあり、いろいろお互いに話をして、充実した2日間を過ごすことができました。

この先、もし自分がまた発表する機会があれば、今回全道大会でいろいろな地域の方の話し方を思い出し、参考にして、聞いている方々から、すごいと思われる発表をして、また自分が全道大会、全国大会へといけるように、仕事のめんでも充実した日々を送っていきたいと思います。

平成23年度
北海道青年農業者会議
全国農業青年交換大会レポート

2012.01.31~02.02

⑤

場所 札幌パークホテル

今年も札幌にて、北海道青年農業者会議が行われました。今年是全国農業青年交換大会という全国から若い農業者を招いての大きな大会になりました。

毎年、北大の講堂での開催でしたが、大きな大会になり、札幌パークホテルでの開催になりました。

ただ、人数が多く発表をする部屋に入れられないというトラブルもありました。今年の発表は、正直あまりそそるもの（自分が経営している作物など）がなくさんねんでした。しかし、1年、もしくは1年以上積み重ねてきたプロジェクトは重みがあり、来年も私たちがこの場で発表できるように頑張っていきたいです。

夜は、パークホテルでの立食パーティーでした。その中で、全国の農業者の方たちと雑談することができました。小さな日本の中でも、気候や作っている作物の違い、農業への関心の違い、地域性などの話をたくさん聞いて楽しかったです。

2日目はアグリ発表です。若い農業者が今何を思っているのか、不安なこと、これからどうやって農業を向き合っていくかを発表する場です。私より若い人や、年配のUターン農業者もいました。ただ、みんな農業で日本を明るくするという共通の思いがあったと思います。

全体を通して、今年はずっと少し違った全道大会になったと思います。渡連4Hからは知内が最優秀を取り全国大会に行くことが決まりました。北斗4Hも負けじとこの1年、みんなと力を合わせて新たなプロジェクトを進めて来年の全道大会を目指したいと思います。

今回参加した「北海道青年農業者会議」についてまとめます。

1. プロジェクト発表

プロジェクト発表は「園芸・特産作物部門」「土地利用型作物部門」「畜産経営部門」「地域活動部門」の四部門に分かれています。今回、渡島からは園芸・特産作物部門において知内町4Hクラブ、やくも4Hクラブの発表、地域活動部門において我が北斗市4Hクラブの発表がありました。

次年度以降の参考までに、他の地域の発表も見回りました。人によっては、語りかけるように、演説するかのように、またお婿さん募集までの発表者もいて、とても為になりました。発表内容も、海外と日本の農業の違いであったり、自分の家の経営改善であったり、それこそ今回北斗市4Hのような商品開発であったり、さまざまなもので、今後の北斗市4Hクラブでの活動の参考にもなり、とても刺激を受けました。

なかでも面白いと思った発表は、農業事典を作成したという発表でした。一見してみるとどうでもいいものなのですが、今、農家が激減している時代、北斗市4Hクラブでも後輩が入ってくるかどうか、不安なところがあります。私は現時点で北斗市4Hクラブで最も最年少で農業経験も少ない下っ端です。そこで飛びこんだ4Hクラブ。先輩方が作成した農業事典があれば、のちの後輩にとって役に立つのではないかと思いました。発表内容には「のちの後輩のため」とも言っていなかったもので、是非それも目的にして挑戦してみたいと思いました。

2. アグリメッセージ

アグリメッセージは今回渡島からは、やくも4Hクラブの発表がありました。アグリメッセージは、次年度私が発表するかもしれないと先輩から言われていたので、よく聞いてきました。プロジェクト発表と同じく、色々な話し方で発表する方がいて、とても参考になりました。

なかには緊張して発表時間を大幅に越えて発表した方もいたので、やはりあれだけ大勢の目の前で発表することはとても大変なんだと思いました。個人的にはやくも4Hクラブの発表が一番よかったと思ったのですが、残念ながら全国大会にすすんだのは他の発表者でした。

今回の北海道青年農業者会議は、初めて参加したこともあり、私にとってはとても良い刺激になりました。これを今後の北斗市4Hクラブの活動にも活かしていきたいと思います。

北海道青年農業者会議、全国農業青年交換大会について

北斗市 4Hクラブ

⑦

先日行われた、北海道青年農業者会議、全国農業青年交換大会に参加させていただきました。

北海道青年農業者会議ではプロジェクト発表、アグリメッセージの発表がメインでした。

プロジェクト発表では、「園芸・特産作物」「土地利用型作物」「畜産経営」「地域活動」の4部門の各発表が同時刻・それぞれの場所で行われました。それぞれ同時刻での発表だったのですべての発表を聞くことは出来ず自分の聞きたい発表事に部屋を移動する必要があったのですが、残念ながら僕の生産している作物の発表が無かったので興味のわいた発表を聞くことにしました。

様々な発表を聞いた中で作った事の無い作物ばかりで難しくよく分からない発表も多々ありましたが、野菜であれ米であれ畜産であれそれぞれ同年代の方々が様々な葛藤や高い誇りを持って農業に取り組んでいると事実が発表から伝わってきて、とても刺激があり自分の中で農業をしていくうえでの気持ちの変化があり参加してみて良かったと感じました。

アグリメッセージの発表は2日目に開催され前職が全く農業と関わりの無い仕事をされていた方や高校卒業と同時に就農した方、新規就農者やベテランの就農者など幅広い層の方々の発表がありました。

1日目のプロジェクト発表とは違い発表者の思い、不安、葛藤、目標など様々な人間らしさというか気持ちの面での発表が多いように感じました、とても共感できることが多く、また皆それぞれ悩みや不満など抱えており、自分一人で抱え込まず皆に相談したりすることの大切さ、その問題を投げ出さず解決する努力をしなければならぬと感じることができ全日程の2日間の発表はとても有意義なものでした。

全国農業青年交換大会は立食スタイルの交流会や講師を招いてのパネルディスカッションなど開催され、様々な地域の方と色々な話を聞くことが出来てとても勉強になりました。

最後にどちらも今年初めて参加してみたのですが、来年もまた是非参加したいと思いました。

農業者会議レポート

⑧

・はじめに

今年度、1月31日～2月1日にかけて青年農業者会議に参加。

今年は、プロジェクト発表を行う。君の補助として参加しました。

・プロジェクト発表・アグリメッセージ

今年は、補助として参加なので他の発表を見る機会に限りが出てしまいました。

今年の発表は、地域活動を中心に見ました。

全体を見て感じたのですが、今年は人と人のつながりを大事にする発表が多かったように思います。

4hクラブを通じて他の分野の人達を巻き込んで一つプロジェクトを達成する。それは、企業だったり、マスコミだったり、大学生や農協等々。

八雲町4hクラブの風の子もちの発表もJAや青年部と連帯した発表でした。

今後も、さらに人脈をいかした発表は増えると思います。

そこから、どうやって独自のクラブ活動を展開していくかが一つのポイントだと思いました。

・全体の感想

北斗市4hクラブは、さつまいもについての発表でしたが、一つのプロジェクトが出来上がるまでを見届けることができ大変勉強になりました。

補助としてですが、発表の雰囲気などは、次年度に向けての参考になりました。

また、新入部員の参加も多かったので飲み会を通して大いに交流することができたと思います。

・次年度へ向けて

来年は、プロジェクトに直接関わる立場になりますが、今年学んだ事を参考にして来年度に繋げていきたいと思います。

農業者会議レポート

⑨

1. 要領

今回は、1/31~2/2までの日程で場所を札幌パークホテルに会場に行われました。参加者は、全道が約350名、道外から約150名以上が参加して行われ、1/31プロジェクト発表とアグリメッセージ講演会、パネルディスカッションとオプショナルツアーで構成され、日程でその他に1/31、全国青年農業交換会をパークホテルで行い、2/1、渡島青年農業交流会を魚屋コ太郎で行い、2/2「どさんこプラザ(札幌駅北口)」「きたキッチン(札幌地下街オーロラタウン内)」を視察しました。

2. プロジェクト発表・アグリメッセージ

1/31プロジェクト発表は、「園芸特産部門」「土地利用型作物部門」「畜産部門」「地域活動部門」の4部門で構成され、園芸は8つ、「土地」は3つ、「畜産」は7つ、「地域」は15個の発表をしまし、アグリメッセージは、12名の発表がありました。

3. 講演会

講師として、体験教育企画代表の藤澤安良氏をこたえ、「体験交流で日本の農業の未来を拓く」とテーマで約1時間半の講演、午後からはパネルディスカッションを開催し、終了後は、閉会式で全日程を終えました。

全体の感想

今回の大会に参加して色々と経験ができ、全道、全国の交流会も盛況でした。私自身はプロジェクト発表の発表者として緊張し過ぎで苦労しましたが、無事に終わった事でホッとしました。また、交流会を通して、人とのふれあいや人との親交が深めたと思います。そして農業大学校の同級生との再会も嬉しかったです。全道を打破る大きな壁が立ちました。改めて難しいと実感できましたし、各クラブの活動を知るいい機会になりました。今後も全道大会に参加できるように更なる活動力につなげられるように頑張りたいと思います。

北海道青年農業者会議レポート

⑩

1月31～2月2日に札幌パークホテルで開催されました。

参加者は道内から350名、全国から150名で総勢500名規模で行われました。

31日にプロジェクト発表、1日アグリメッセージ・講演会・パネルディスカッションの行程で行われました。

プロジェクト発表の「園芸特産部門」で同じ渡島地区の知内4hが最優秀賞で全国大会に出場する快挙ですばらしい発表でした。

今回の農業者会議を通して、道内や全国の人達から色々な話が聞けて初めて聞くことなどがたくさんあり、驚くことが多かったです。

今回のこの経験をこれからの営農に役立てていけるよう頑張りたいとおもいます。

今回参加した「全国青年農業者会議」についてまとめます。

1. あぐぶろ！最終発表

あぐぶろは「日本農業の未来の為に、農業を変えるリーダー育成」をコンセプトとした就農者の発表です。今の自分の身の丈にあったものや、高度な「将来のリーダー像」がわかりやすく発表されていて、私も負けないよう、これからの地元の農業を改革できるような農家になりたいと思いました。

2. プロジェクト発表

北海道青年農業者会議での発表の延長でしたが、今回は全国での発表だったので、北海道ではみられない作物についての発表もあり、とても勉強になりました。私の家はほうれん草をメインに栽培していますが、発表者の中に「ハウレンソウ生育予測システム」というパソコンソフトを独自開発したものがあり、「同じ世代の農家で、こんなことまでできるんだ！」と、とても刺激になりました。

3. 農業青年の意見発表

これは北海道青年農業者会議での「アグリメッセージ」でした。全道の時には、色々な語り方で発表者がいましたが、全国では皆、アナウンサーのようにとっても聞きやすい語り方で、驚きました。発表態度も審査項目に含まれていたそうですが、全国では中身勝負がほとんどでした。渡島でのアグリメッセージでは、ネガティブな部分が多い発表が多く「で？これからは具体的に何をしたいの？」という質疑がほとんどでしたが、全国での発表では、皆具体的な将来の目標とそれを遂げるための今すべきことが明確に発表され、聞く側も心地よく聞けました。

今回の全国青年農業者会議は、知内4Hクラブの方々について行く形で、北斗市4Hクラブからは私1人の参加でしたが、同じ渡島のクラブ会員とも濃い交流ができました。上記の3つ以外にも、基調講演や企業プレゼンなど、これからの日本の農業には多くの可能性があるかと再確認させられるものもあり、とても勉強になりました。

